

- 1 だいまくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは二きようめに書き、文しよは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくにきようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

( ) 月 日 曜日

わたしとお母さんのゆめ

田崎小 三年

新保

心花

ただいまあ。

お母さんが仕事から帰ってきました。お母

さんは休むひまもなく、台所に立ってわたし

たちのご飯を作ります。時々、ゆくり頭を

左右に曲げ、首のすじを伸ばしています。わ

たしは、「仕事が終わってもすぐうちの仕

事を。お母さん、て大へんだなあ」と思いま

した。

わたしのお母さんは、理学り、うほうしを

しています。理学り、うほうしは、けがや病

気、高れいになつて、手足が不自由になつた

人が動けるようにリハビリをする仕事です。

さらにリハビリだけでなく、その人にあつた

かんきょうや、長くけんこうでいられるため

のアドバイスもしていて、すべての人が、自

分らしい生活を送れることが出来る手助けを

する仕事です。お母さんは、この仕事につい

てわたしに話をしてくれました。

(不許複製)

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。



- 1 だいちくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは二きようめに書き、文しよは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくに二きようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三ばんめのマスから書き、あたまをそえましよう。

( ) 月 日 曜日

「お母さんは、だれかのためになる仕事がい  
 たいし、大へんでもやりがいのある仕事がい  
 たいからこの仕事をえらんだの。そして  
 人に感し<sup>ヤ</sup>される<sup>ト</sup>も<sup>ト</sup>とやる気が出て  
 くるんだよ。」  
 と言<sup>ッ</sup>ていました。わたしは、<sup>」</sup>だから、  
 夕方<sup>ッ</sup>がれて帰<sup>ッ</sup>てきても休むことな<sup>ク</sup>わたし  
 したちの夕<sup>ゴ</sup>飯を作れるんだ。お母さん<sup>ッ</sup>て  
 す<sup>ゴ</sup>い<sup>ナ</sup>と<sup>」</sup>思<sup>イ</sup>ま<sup>シ</sup>た。  
 今<sup>」</sup>け<sup>ガ</sup>や病<sup>ク</sup>い<sup>デ</sup>、高<sup>ク</sup>れ<sup>イ</sup>で、身<sup>ク</sup>体<sup>ガ</sup>動<sup>カ</sup>な  
 くな<sup>ッ</sup>てしま<sup>ッ</sup>た人は、お母さんのような人  
 たちがリハビリをしないと、身体が動かしに  
 くくな<sup>ッ</sup>てしま<sup>ウ</sup>そうです。も<sup>ト</sup>と理<sup>リ</sup>学<sup>リ</sup>よ  
 うほ<sup>ウ</sup>しの人<sup>ガ</sup>いた<sup>ラ</sup>、も<sup>ト</sup>と多<sup>ク</sup>の人<sup>ニ</sup>、  
 も<sup>ト</sup>と多<sup>ク</sup>の時<sup>間</sup>リハ<sup>ビ</sup>リを<sup>シ</sup>てあ<sup>げ</sup>たら、  
 身<sup>ク</sup>体<sup>ノ</sup>な<sup>ヤ</sup>み<sup>を</sup>か<sup>か</sup>え<sup>て</sup>い<sup>る</sup>人<sup>ガ</sup>、へ<sup>る</sup>ので  
 は<sup>な</sup>い<sup>か</sup>と<sup>」</sup>思<sup>い</sup>ま<sup>す</sup>。  
 そんなお母さんを見て、わたしは、だれか  
 のためになる仕事はともすばらしいと思<sup>う</sup>  
 ようにな<sup>り</sup>ま<sup>し</sup>た。

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいちくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは二きようめに書き、文しうは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字をけて書きはじめ、だんらくにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

( ) 月 日 曜日

学校に登校する時、朝早くからおまわりさ  
 んが、交差点に立って、わたしたちが安全に  
 登校出来るようにお世話をしていてい  
 ます。わたしのおうちのまわりの道路は、ほとん  
 ど歩道がついていきます。しかし、でこぼこ道  
 だつたり、所どころ歩道が切れていたり、身  
 体の不自由な人が通るには、きけんな所がた  
 くさんあります。おまわりさんになつて、身体  
 の不自由な人が安心して町を歩けるように、お  
 母さんと同じように、だれかのためになる仕  
 事をするのがゆめです。お母さんが身体の不  
 自由な人を歩けるようにリハビリをして、そ  
 してわたしが、安心して町や道路を歩けるよ  
 うにする、そんなかの屋にしたいと思いま  
 す。心に花と書いて「みな」花を見ると心が  
 ほっとします。わたしの名前です。両親がつ  
 けたこの名前にまけないように、お母さんに  
 まけないように、だれかのためになる仕事を  
 し、かの屋をよくするためがんばります。

- 4 、と、は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなだけを書きましよう。

(不許複製)

